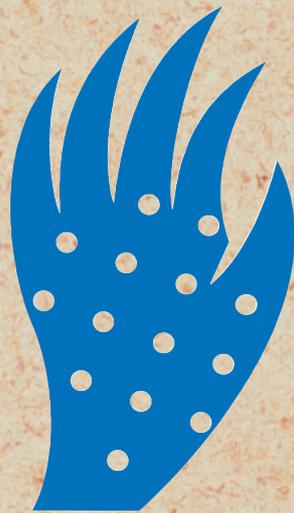


九大皮膚科の百年



九州大学皮膚科百周年記念誌の発刊を祝して

自遠会の皆様方の多大なる御尽力のおかげをもちまして、九州大学皮膚科学教室百周年事業を完遂することができました。2005年11月19日の百周年記念式典そして翌20日の百周年記念第335回福岡地方会には、あわせて300名以上の方々の御臨席を賜りました。1906年11月20日の教室開講から、ちょうど百年目の第1日目に地方会を開催することができ、6代目の教授としてこのような光栄に浴することに、本当に感謝いたしました。また百周年の集大成として本記念誌が発刊されますことは、教室の過去、現在を再認識する絶好の機会であるとともに、教室の未来を真摯に受け止め熟考し、夢を具現化させるための起爆剤としての役割も大きいものと身を引き締めております。

百周年記念式典は、自遠会会長である占部治邦先生を中心に、中溝慶生先生、旭 正一先生、福田英三先生、日野由和夫先生、本房昭三先生、中山樹一郎先生、松田哲男先生に、教室のスタッフも加わって記念式典準備委員会が組織され企画・運営が行なわれました。百周年記念福岡地方会は、占部和敬助教授、師井洋一講師、増田禎一講師、國場尚志医局長を中心に医局員全員で企画・運営いたしました。また本百周年記念誌は、編集長としてその編纂に献身的に取り組まれた旭 正一先生のご尽力なくしては、発刊の日を迎えることはできませんでした。記念式典そして地方会に際しましては、杉岡洋一前九州大学総長、金出英夫九州大学大学院医学研究院長、玉置邦彦日本皮膚科学会理事長、許 徳清教授（中国、中山大学）、金 永杓教授（韓国、全南大学）より御講演並びに御祝辞を賜りました。各大学皮膚科の名誉教授、教授の先生方の御臨席や御祝電も賜りました。自遠会の先生方には実に多くの御寄付や御参加を賜りました。福岡地方会員の先生方、薬剤関係の皆様方にも多数御臨席を賜りました。この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。末筆になりましたが、これまで様々なる方面で医局を支えてくれた医局員諸氏に深甚なる感謝を申し上げて、巻頭言に代えさせていただきます。

九州大学医学部皮膚科学 第6代教授 古江 増隆
